

## 令和2年度 公共事業再評価調書

担当部/課名	都市整備部 都市政策課
--------	-------------

再評価実施要件	<input type="radio"/> 未着手 (5年) <input checked="" type="radio"/> 長期間継続 (5年) <input type="radio"/> 再評価後 (5年) <input type="radio"/> その他 ( )
---------	--

### I 事業概要

事業種別	街路整備事業	事業方法	<input checked="" type="radio"/> 国補助 <input type="radio"/> 県補助 <input type="radio"/> 市単独					
事業名	青森駅周辺整備推進事業	事業箇所	柳川一丁目地内					
採択年度	平成 27 年度 ( 用地着手 平成 30 年度 / 工事着手 平成 30 年度 )							
終了予定年度	令和 4 年度							
事業目的	<p>・鉄道による東西市街地の分断を解消し、徒歩による移動をより円滑にするため、歩行者専用道路として「青森駅自由通路」を整備するとともに、現在の西口駅前の輻輳している交通の整序を図り、東口駅前広場の機能を補完し、自由通路と一体となって多様な交通手段に対応するよう交通結節機能を強化するため、「西口駅前広場」の整備を行うものである。</p>							
主な内容	区 分	当初計画時	再評価時	増 減				
	8・7・2号青森駅自由通路	約170 m	約170 m	— m				
	3・6・6号青森駅西口線(青森駅西口駅前広場)	約8,300 m <sup>2</sup>	約8,000 m <sup>2</sup>	△300 m <sup>2</sup>				
	※事業量や総事業費の増減に係る説明等を記入。 ( 青森駅西口駅前広場については、詳細設計において精査した結果、面積を当初の8,300m <sup>2</sup> から8,000m <sup>2</sup> に変更 )							
事業費	(単位: 百万円)							
		～平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	小計	令和3年度～	合計
	○事業費	279	382	1,350	2,877	4,888 (a)	4,692	9,580 (e)
	うち①用地費		194		241	435 (b)	0	435 (f)
	②工事費	241	103	1,310	2,537	4,191 (c)	3,752	7,943 (g)
	③その他	38	85	40	99	262 (d)	940	1,202 (h)

### II 評価指標及び項目別評価

#### 1 事業の進捗状況

事業の進捗状況		計画全体に対する進捗
	○事業費割合	51.0 % [ (a)/(e) ]
	うち①用地費	100.0 % [ (b)/(f) ]
	②工事費	52.8 % [ (c)/(g) ]
	③その他	21.8 % [ (d)/(h) ]
説明	<p>・青森駅自由通路の整備については、平成30年7月に、鉄道事業者である青森県及びJR東日本と「青森駅自由通路整備等に関する工事の施行協定」を締結し、同年10月に工事に着手している。</p> <p>・また、自由通路等供用後、現在の駅舎を撤去するとともに、西口駅前広場の工事に着手する予定である。</p>	
問題点 解決見込み	・なし	
事業効果 発現状況	・青森駅自由通路は令和2年度末の供用開始を、西口駅前広場は令和4年度の完成を目指している。	

## 2 社会経済情勢の変化

必要性	・鉄道による東西市街地の分断を解消し、徒歩による移動をより円滑にするため、歩行者専用道路として「青森駅自由通路」を整備する必要がある。また、現在の西口駅前前の輻輳している交通の整序を図り、東口駅前広場の機能を補完し、自由通路と一体となって多様な交通手段に対応するよう交通結節機能を強化するため、「西口駅前広場」の整備を行う必要がある。
適時性	・青森駅周辺地区では、平成30年1月に青森市役所の総合窓口機能が、また、同年7月には青森商工会議所が移転するなど、賑わいの再生につながる、新たな人の流れが創出されており、青森駅自由通路と西口駅前広場の整備により、今後、より一層の賑わいの拠点としての役割を担うことが期待されている。
効率性	・青森駅自由通路が整備されることにより、歩行者の移動時間の短縮が見込まれる。 ・青森駅自由通路の東西出入口にエレベーター・エスカレーターが整備されることにより、上下移動に対する快適性の向上が見込まれる。

## 3 費用対効果の分析

費用便益比	区分	主な項目		8,869 百万円
	費用項目(C)	① 事業費	8,696	
		② 維持管理費	175	百万円
		総費用	8,871	百万円
便益項目(B)		① 歩行者の時間短縮便益	5,217	百万円
		② 走行時間短縮便益	31	百万円
		③ 歩行者の移動サービス向上便益	3,099	百万円
		④ 滞留・交流機会増大・都市景観向上便益	310	百万円
		⑤ 上下移動快適性向上便益	212	百万円
		⑥ 残存価値	56	百万円
		総便益	8,925	百万円
費用便益比(B/C)		費用便益比(B/C)	1.006	
		修正費用便益比(B/C* $\alpha$ )	1.438	

※地域修正係数( $\alpha$ ): 1.429(青森地方生活圏)  
 ※費用対効果分析の根拠等  
 (「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針(共通編)」(平成21年6月、国土交通省)  
 「都市再生交通拠点整備事業に関する費用便益分析マニュアル(案)」(平成13年4月、国土交通省都市・地域整備局)  
 「費用便益分析マニュアル」(平成30年2月、国土交通省道路局・都市局)

## 4 コスト縮減や環境配慮などへの検討

コスト縮減等	・自由通路の整備については、施設の配置や工程等を工夫した施工計画とすることで、コストの縮減を図ることとしている。また、市民の皆様からいただいた御意見等を踏まえ、内観のデザインを、「りんごの木箱」を積み上げたイメージとし、県産材を活用することとしている。 ・西口駅前広場の整備については、路盤材・舗装材に再生材を使用し、コストの縮減及び環境負荷の低減を図ることとしている。
--------	--

## III 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	● 継続実施                      ○ 計画変更して実施                      ○ 事業中止                      ○ 事業休止
評価理由等	・青森駅周辺地区は、これまで本市の経済・文化の中心として本市の発展を牽引して来たが、本地区は、今後も引き続き、賑わいの拠点としての役割を担うことが期待されており、本事業(青森駅自由通路と西口駅前広場の整備)については、当初予定の供用開始を目指し、事業効果発現を図る必要があることから、継続実施とすべきものとする。